特241
90

赤松克麿編

勞働歌集

第一輯

社會民衆新聞社發行

始

特241
90

勞働歌、それは梢に鳴る松籟であり、渚に碎く怒濤である。
高らかにうたへば亮々として盡きず、低く吟ずれば惻々として
岸を呑む、闘爭と休息と、悲憤と希望との渾然たる一大散彈
が、雄々しくも般かな諧調に托されて飛ぶ、飛ぶ、支配階級の
面へ、資本家の胸へ。

唱へ、同志、われらの希望を！
讃へ、同志、われらの威力を！

勞働歌

（煙も見えずの譜）

賀川豐彦作

（一）

目覺めよ日本の勞働者
過去の因襲打破り
世界改造遂ぐるまで
刻苦勉勵努力せよ

（二）

培ひ機織り船つくり

昭和三年 帝國圖書

地の底くゞり鑛を堀る
汗を絞りてパンを練る
勞働者こそ尊けれ

（三）

彼は朝に霜を踏み
夕に星をいたゞきて
彼の家路に急ぐまで
人のためにぞ盡すなる

（四）

目覺めよ日本の勞働者
過去の因襲打破り

世界改造遂ぐるまで
共同一致努力せよ

勞働歌

（煙も見えずの譜）

賀川豐彦作

（一）

山河も睡る眞夜中に
機械の前に立つは誰れぞ
神の如く優れたる
雄々しき姿何人ぞ

（二）

或は山に海に野に

將また地下の坑道に
孜々營々といそしめる
かのはらからは何人ぞ

（三）

彼等ぞまこと人類の
いとも貴き恩人ぞ
都も鄙もおしなべて
つくりなせるは彼等なり

（四）

彼等は久しく耐べども
地下に潛める蛟龍ぞ

時こそ來れ光明の
天空さして雄飛する

（五）

時こそ來れ、新進の
自由の天地切りひらき
產業自治の新世界
世々とこしへにうちたてよ。

メーデーの歌

（アムール川の譜）

秋田雨雀作

（一）

聞け萬國の勞働者
轟き渡るメーデーの
示威者に起る足どりと
未來を告ぐる鬨の聲

（二）

汝の部署を放棄せよ

汝の價値に目覺むべし
全一日の休業は
社會の虚僞を擊つものぞ

（三）

永き搾取に惱みたる
無産の民よ蹶起せよ
今や二十四時間の
階級戰は來りたり

（四）

起て勞働者奮ひたて
奪ひ去られし生産を

正義の手もて取返せ
彼等の力何ものぞ

（五）

我等が歩武の先頭に
掲げられたる自由旗を
守れメーデー勞働者
守れメーデー勞働者

メーデーの歌

（アムール川の譜）

赤松克麿作

（一）

櫻は散りて貴人等の
榮華の夢のさめし時
青葉の風の送り來し
プロレタリヤの紀念祭

（二）

人類文化の柱なる

此の双腕をさしのべて
天下に示せ我々の
意氣と希望と友愛を

（三）

暴虐無道の資本主義
屠る使命は我にあり
友よ今日の日もろともに
かたくちかわん自由戰

（四）

あゝ今日の日は萬國の
同志の意氣も天を突き

敵の牙城にせまるらん
健(すみやか)なれや同志等よ

（五）

あゝメーデーは何の日ぞ
世界の敵のおそるゝ日
世界の味方が祝する日
正義の赤旗ひらめく日

メーデーの歌

（蒙古の船はの譜）

松岡駒吉作

（一）

春爛漫の花散り失せて
空晴れ渡るメーデーを
友よ謳へよ聲高らかに
我が勞働の神聖を

（二）

プロレタリアの春は來りぬ

喜び勇み濶歩せよ
我れ産業の野に生ひ立ちて
月の冠奪ふまで

（三）

見渡す限り煙も見えず
菁葉の香り地に滿てば
工場の鐵門今日ぞ開かれ
民衆の旗飜る

（四）

メーデー祝ふ年重なりて
同志の意氣は天を衝く

友よ奪へよ資本の牙城
やがて屠（ほふ）らんその日まで

（五）

雪のシベリヤ熱砂の印度
轟き渡るメーデーの
歡呼の聲は世界に滿てり
未來は我等のものなりと

神戸大
麗業

慘敗紀念の歌

（噫玉杯の譜）

赤松克麿作

（一）

あゝ八月の陽の如く　怨ぞ胸に燃ゆるなる
我等が四十有餘日　正義の爲めに滿身の
力と血を捧げたる　戰ひ遂に敗れたり

（二）

横暴壓制並びなき　敵の刄に戰友は
傷き倒れ囚はれて　旌旗空しく光なし

陣營暗く慘として　鬪士の顏に涙あり

（三）

いかで忘れん今日の日を　怨は永く結ばれて
戰意ます〳〵高まりぬ　正義の凱歌擧ぐる迄
眞理の光仰ぐまで　我等は飽迄戰はん

（四）

正義の爲めに倒れてぞ　男子始めて誇あり
壓制、迫害何者ぞ　最後の勝利我にあり
やぶれし旗を敢然と　捧げて進め十字軍

（五）

友よ曇りし面上げて　我等の行手望み見よ

道は嶮しく暗けれど　遙けき丘に光あり
我が力のみ頼みつゝ　陰忍自重努力せよ

團結の歌

（民衆の旗の譜）

福岡金次郎作

（一）

曉近し勞働者
我等の前途を望め
生活の不安なき
社會ぞ我等はつくる

組織せよ　組織せよ
團結は我々を
解放の　光明へ
導く　唯一のものぞ

（二）

個々の力は弱けれど
團結一度ならば
支配者の壓迫も
何にかは　恐るゝものぞ

組織せよ　組織せよ
團結は　我々を
解放の　光明へ
導く　唯一のものぞ

（三）

來れ　我等の城塞に
正義を　愛する友よ
かたき友誼に結ばれて
兄等と共に　進まん

組織せよ　組織せよ
團結は　我々を
解放の　光明へ
導く　唯一のものぞ

同志の歌

（妻をめとらばの譜）

赤松克麿作

（一）

乙女戀せば一筋に
焔と燃えよ美しく
友と結べば鐵のごと
堅き友誼の上に立て

（二）

親に背きて家を捨て
戰線に立つ若き身に
友の情の熱なくて
我が悲しみを忘れんや

（三）

機（はた）の絲繰る乙女子に
淑女の知らぬまことあり
ハンマー手にとる若者に

まことの男君を見る

（四）

三度解雇の厄に遇ひ
元の工場をたづぬれば
獻身苦鬪血盟の
同志は散じて影もなし

（五）

刀は折れて矢は盡きて
我れ囚れの身となりぬ

無念なるかな燃ゆる血よ
雁聲高し秋の夜

（六）

我に輝く理想あり
我に不拔の力あり
行手をさへぎる者あらば
正義の劍血ぬるべし

（七）

春の櫻に秋の月

世の閑人の醉へる時
プロパカンダに戰ひに
我が青春は逝かんとす

（八）

山河を越えて幾百里
同志の難に吾は行く
彼の憂ひは吾が胸に
同じ調べを傳ふかな

（九）

同志一人は病床に臥し
同志二人は獄にあり
前途は遠く日は暗し
我いつの日か報はれん

（十）

折にふれては世を厭ひ
絶望の暗とざせども
友の情に感じては

いかで持場を捨つべきや

（十一）

友よこの腕強き腕
長くも勞苦きざみたる
さあれ未來の礎は
此の腕ならで誰が築く

日本勞働總同盟の歌

（マルセイユの譜）

赤松克麿作

（一）

起てよ日本の勞働者
　時は來れり
因襲の夢より醒めて　黎明に輝く
　組合旗の下に立て
資本專制の世打ち破りて
　正義と愛の社會をもたらせ

あゝ團結の威力もて　進め進め
　未來は我等がものぞ

（二）

苦闘茲に十餘年
　起てり總同盟
光輝ある其の歴史　洋々たるその前途
　戰士の任また重し
浮薄輕佻の議打ちしりぞけて
　毅然と歩む　大衆の行く道
あゝ團結の威力もて、進め進め
　未來は我等がものぞ

（三）

見よや世界に滿ち渡る
　同志の威力を
同じ理想を目がけ　己が持場に就き
　我等も又戰はん
憂きと喜びを共にわかつ
　堅き友誼（よしみ）の綱に結ばれて
あゝ團結の威力もて　進め　進め
　未來は我等がものぞ

313
397

社會民衆黨の機關新聞
勤勞無產階級の代表的言論機關

社會民衆新聞

月二回發行
（一部三錢・年七十錢）
（講讀希望者は直接本社へ申込あれ）

本社　芝區新堀町三一
　　振替東京四八五一二

定價十錢

昭和二年四月二十八日印刷
昭和二年五月一日發行

編輯兼發行者　赤松克麿
東京市芝區新堀町三一

印刷者　井波康三郎
東京市神田區表神保町一〇

印刷所　西村印刷所
東京市神田區三崎町三ノ六五

終